

北区 女性だより

# Azalea

アゼリア



- ポートレート(北区の女性)  
『自分のまち』を愛し、地域の中で  
充実した年齢を重ねたい  
小澤 浩子さん(赤羽2丁目)
- 特集:北区女性大学  
北区女性大学第1期  
36名の修了生が誕生しました。
- INFORMATION  
聞き書き自分史  
田村さん(神谷丁目)
- 区民が訪ねる区の施設  
滝野川文化センターを訪ねて  
堀内美智子さん(赤羽西6丁目)

## 『自分のまち』を愛し、地域の中で 充実した年齢を重ねたい

アナウンス技術を生かして活躍

小澤 浩子さん (赤羽2丁目)

「グローバルメッセージ '93春」をテーマに区が展開した事業の一つ、女性政策課が行った講演とコンサート「大正ロマンの女性たち」。小澤さんの流麗な司会が講演とコンサートを上手に結び、参加者の共感を高めました。

ラジオのアナウンサーとしての活躍を土台として、こうした催しの司会に加え、専門学校でのアナウンス技術や秘書養成講座の講師などに活躍する小澤さん。今回、女性センターで開講した「女性大学」に応募し、忙しい時間をやりくりしながら出席を重ね、修了生の一人になりました。

「女性大学で私が属したグループでは、これまでの生活に何の不満も感じないで、「幸せだ」と思ってきた。そんな方たちが多いのですが、女性大学で学んでいく中で、女性を取り巻くさまざまな問題を具体的に知り、「ああ、こういう問題があったのか」と気づきました。これからも『資料を読んだり見学に行ったりして、勉強を続けましょう』と、みなさんで話し合っています」。

夫の実家は、赤羽すずらん通りの魚屋さん。自宅は、その近くです。お子さんが通った幼稚園のPTAコーラスグループに始まる友人のネットワークも広がっています。

「地域の中で生き、学んだことを地域へ還元し、充実した年齢を重ねていきたいですね。『自分のまちを住みよくしたい』という思い入れがないと、本当の意味のふるさととはできないと思うんです」。

また小澤さんは、北区を「区の人口は減っているけれど、マンションや団地などに若い人の流入は増えている」と分析。そうした人

たちと、長年地域に住む人々との接点になりやすいのは女性かもしれないと考えています。

「立場は違っても同じような考えを持った女性たちに出会えたこと、それが女性大学に参加しての一番大きな収穫だったと思います。2期、3期と、多くの方の女性大学への参加をお勧めします。家の中でひとり考えていても何も始まらないですからね。ちよつと一歩踏み出すというきっかけが大切ですね。小澤さんをはじめ、女性たちの地域づくりへの努力が、少しずつ確かに始まっています」。



講演とコンサート「大正ロマンの女性たち」の司会

# 特集：北区女性大学

北区女性大学第1期36名の修了生が誕生しました。

北区では平成3年に策定された女性行動計画「アゼリアプラン」にもとづき、平成4年11月から「女性大学」を開講しました。

11月から翌年2月までの3か月間、13回の講座を受け、2月9日には36名の修了生が誕生しました。

女性大学第1期生のこれからの活躍が期待されるところです。



修了証の授与

講となりました。

北区では、平成2年12月「北区婦人問題懇話会」からの提言を受け、平成3年7月に男女平等参加型社会を築くための北区女性行動計画「アゼリアプラン」を策定しました。

アゼリアプランは「女性も男性もひとりの人間として理解しあい、お互いに自立し、いきいきと暮らしていくための総合的な計画」です。そして、アゼリアプランの第一の主要課題に、「政策方針決定の場への女性の積極的登用」があげられています。

——区の委員会や審議会にもっと女性の参加を！——そのためには、女性が能力を発揮できるような学習と、機会を準備する必要があります。区民に広く呼び掛けて「女性大学」の開講となりました。

女性大学日程表

	月 日	テ マ	講 師
1	11月4日水	オリエンテーション	
2	11日水	女性問題とは何か —今日的課題をみる(1)—	お茶の水女子大学 助教授 館 かおる 氏
3	18日水	〃 —今日的課題をみる(2)—	〃
4	25日水	男女平等教育に向けて	お茶の水女子大学女性 文化研究センター員 岸澤 初美 氏
5	12月1日火	新しい家族関係に向けて	弁護士 福島 瑞穂 氏
6	8日火	女性の働き方を考える(1) 男女雇用機会均等法の実情	立教大学教授 大森 真紀 氏
7	15日火	女性の働き方を考える(2) パートタイマーをめぐる動き	〃
8	1月6日水	女性史を築いた人たち 女性の視点を区政に	女性史研究家 折井 美耶子 氏
9	12日火	区政に参加して思うこと	区監査委員 弁護士 白井 典子 氏
10	19日火	わが街を知る —北区女性行動計画— アゼリアプラン	区女性政策課長
11	26日火	わが街を知る —第三次北区基本計画—	区企画課長
12	2月2日火	わが街を知る —(仮称)北区地域保健福祉計画—	区福祉課長
13	9日火	個人発表・まとめ	立教大学教授 大森 真紀 氏

## 修了証

あなたは平成4年度第1期  
北区女性大学の課程を修了  
したことを証します

平成5年2月9日

東京都北区長 北本正雄





グラフを使って、研究を発表

### 〈第一回 オリエンテーション〉

●おひとりおひとりの自己紹介がすてきで、おどろきました。

●60の手習いのつもりで、今日参加しましたが、皆さん生き方、社会への参画等将来に対するとりにくみに対して、真面目に進んでいる様子をうかがい、私自身老い等と云っているのは許されませんので、しっかりと勉強してまいります。

### 〈第二回 女性問題とは何か(1)〉

●男女同権とよく聞くし、又口にもしますが育った時代又家庭によって人それぞれ違っている。私自身娘に貴女は(女)なんだからと思わず言っている事が多い。又、意見をのべる事と自分自身がその事に対して責任を負う事も忘れてはならないと思う。

### 〈第三回 女性問題とは何か(2)〉

●ただ何となく女性をやってきました。57才にして初めて女性としての考え方、性のみつめ直し、問題意識を持って生きて行かなくてはと考えさせられました。

### 〈第四回 男女平等教育に向けて〉

●私共の時代は男性社会で、それに従って参りました。しかし、戦後は職業も一変し、夫婦協力して中小企業を創業し、現在に至りました。その間に、自然に男女平等の意識が生まれ、孫達の教育については平等の教育でゆくべきだと思っています。

### 〈第五回 新しい家族関係に向けて〉

●女性問題はそのまま男性側の問題でもある。女性の問題をあまり大上段に構えず、肩の力

を抜いてもっと身近なものと考え、この必要性を知らされた。女性、男性と言う前に一個の人間として、自分をいつも堂々と表現できる存在でありたいと思う。

### 〈第六回 女性の働き方を考える(1)〉

●女性大学は大半が主婦ですので、このような雇用機会均等法の講座には一般の方にも聞いていただきたい。また専業主婦に視点をあてた話もあったら良いと思います。

### 〈第七回 女性の働き方を考える(2)〉

●自分の仕事に関係のある事で、とてもよく理解できました。パートタイマーの背景がよくわかり、これからも考えて対処したいと思えます。

### 〈第八回 女性史を築いた人たち〉

●思えば長いイバラの道をたどった女性の歴史を知り、やっとカクトクした女性参政権、貴重な一票は、あだやおろそかには出来ない。政治倫理が問われながらも、どうせ、とか、しょうがない、と思わず、政治に背を向けず、政治意識を高めなければ...と反省の意を含め、政策決定の場への参画を考える。

### 〈第九回 区政に参加して思うこと〉

●実生活を振り返ってみて講師の先生の話が身近に感じました。それぞれが問題意識を持って、社会に地域にかかわって行く事が、私生活を守り、大きな力となって行く事がわかりました。どんどん積極的にものを見て行きたいと思えます。



研究のまとめを報告

## 「ひと言感想」で つづる女性大学

北区女性大学では、毎回の講座終了後、受講生に「ひと言感想」を書いていただきました。

第1回から13回までの女性大学

受講生の声をピックアップし、

受講生の声をピックアップし、

受講生の声をピックアップし、



第11回 わが街を知る(2) - 第三次北区基本計画 -

〈第十回 わが街を知る(1)〉

●アゼリアプランの説明をよく聞いて納得しました。特に老人問題については人ごとでなく、身につまされる問題です。女性の意識調査なども地域の方々にもっともっと今回勉強した内容等、話していかなければと実感しました。

〈第十一回 わが街を知る(2)〉

●北区の区政について今まで興味を持ったことがありませんでした。企画課長さんのお話はわかりやすく、区政に親しみさえ感じました。

〈第十二回 わが街を知る(3)〉

●具体的な区の計画をお聞きし、21世紀への希望と自分が受けるであろう老人福祉が想像できる思いがしました。そのためにも、今、自分でできる事をできるだけ取り組んでいく事が必要だと思いました。

〈第十三回 発表・修了式〉

●毎週楽しみに通わせていただきました。最初は何の為に自分はここにいるのかと思いましたが、だんだん方向性が見えて来、知る事の大切さを学びました。自分の身近な所から町ったこと、感じたことを声にしてだしていくことが周囲の意識改革を計る第一歩であることがわかりました。女性大学で学んだ知識を少しでも社会や地域に生かすことができたと思います。



メモをとりながら熱心に発表を聞く



ご紹介します。

## 女性センター相談室

どんなささいなことでも

ひとりで悩まず気軽にご相談を //

夫婦、親子、近隣、職場、友人など人間関係で悩んでいませんか。悩むことは自分の人生をみつめるチャンスです。専門のカウンセラーがあなたといっしょに解決の糸口を探します。

場 所 北区女性センター  
地階相談室  
電 話 03-3913-0015 (相談室専用)  
事前に予約してください  
費 用 無料  
時 間 水曜日・金曜日 午後1時～5時

※相談に関する秘密は固く守ります

女性センター講座の歩み

「女性学入門講座」

「主体的に女を生きる」とはどういうことが、家族、地域、社会との関わりの中で考えました。夜間に開講したため多くの働く女性も参加されました。

日時：10月29日～11月26日（5回）

講師：木村美紗子氏（青山学院大学講師）

「講演会」

社会で活躍している女性を講師としてお招きし、10月から3月にかけて、6回の講演会を開き、「女と生まれた喜びを求めて」、「シングルに生きる」などをテーマとして、女性の生き方についてお話を伺いました。

また、女性大学受講生がひろく区民の方へメッセージを伝えるため、北とびあ研修室で次の受講生企画講演会を開きました。

日時：3月13日（土）

講師：吉武輝子氏、宮子あずさ氏

「娘の言い分、親の言い分」

「男の料理教室」

家庭内での役割分担を考える契機とするため、男性を対象とした料理教室を2月から3月の水曜日の夜間3回にわたり開講し、60名近い方が参加しました。

「趣味、教養講座」

技術の習得を目指し、和裁、洋裁、料理、茶道、花道教室を、10月から3月までの半年

間にわたり多くの方が受講されました。その他、園芸、書道、バンフラワー装飾、ちぎり絵、話し方教室、ワープロ教室等の講座を随時実施しました。

北区女性センター平成5年度  
(4～7月)の主な事業計画

事業名	期間	曜日	時間	回数	定員対象	広報掲載日
女性セミナー	4.14-7.7	水	午前	8	40 男女	3.15
話し方教室	4.16-5.21	金	夜間	6	40 女性	3.15
趣味 教養 講座	水墨画講習会	4.15-6.17	木	夜間	40 男女	3.25
	日舞講習会	4.23-6.25	金	午前	30 女性	3.25
自分史講座	5.13-7.1	木	午後	8	40 男女	4.15
ワープロ入門講座	5.19-5.21	水木金	午後・夜間	各3回	20 女性	4.15

※女性大学はさらに内容を充実し、平成5年度も開校します。

北区女性団体リーダー交流会開催

2月15日 赤羽会館大ホール

女性政策課では、昨年8月に女性団体の発展・自主交流の促進を目的に、北区内の女性団体の登録を行いました。

第一回北区女性団体リーダー交流会は、地域活動、学習、趣味等、103団体の登録と「北区女性団体名簿」の作成を記念して開催されました。

当日は60団体、110名の出席者が、北区の女性行動計画「アゼリアプラン」の推進状況や今後の女性行政についての話し合いの後、昼食をとりながら、なごやかな交流を行いました。

なお、女性団体の登録は女性政策課で順次受付をしています。



「大正ロマンの女性たち」

— 与謝野晶子没50年 —

君死にたまふことなかれ  
歌に生き、恋に生きたと言われる晶子の歌を通して、講演と音楽から大正時代の女性の生き方を眺めてみました。

大勢のご参加ありがとうございました。

日時：2月15日（月）

会場：赤羽会館講堂

講師：高良留美子さん（詩人）

音楽：吉岡しげみさん（ピアノと歌）

竹井誠さん（篠笛）



「婦人週間講演と音楽のつどい」

日時：3月27日（土）

会場：北とびあさくらホール

講演：「いま・女性たちは'93」

落合恵子さん（作家）

音楽：「めぐり逢った歌・人・こころ

— 美空ひばりをさうたう —

大庭照子さん

## 聞き書き自分史

「どんな人生か」って、働いて働いて働いて働いて。でも、面白い人生ですよ。

## 田村 ぎんさん(神谷一丁目)

JR板橋駅近くを通る田中山道。この田中山道は、江戸時代、日本橋を起点とした五つの街道の一つで信濃・美濃を経て京都に至る重要な交通路でした。

田中山道沿い、滝野川6丁目に、明治40年から続く「株式会社 亀の子束子 西尾商店」があります。戦災を免れた西尾商店の工場敷地には、古い建物がいっぱい。落ち着いた雰囲気が漂っています。

この「亀の子たわし」の名物おばあちゃん、今年82歳になる田村ぎんさんです。

田村さんは、明治44年8月に板橋で生まれました。5人姉弟の二番目。小さいころは、父親にいつもべったりくっついて甘ったれ屋さんだったそうです。

14歳で西尾商店に入社、以来68年。たわしの製造一筋に勤務してきました。今では、「亀の子たわしのことなら、田村さんに聞け」と社内では言われる「亀の子たわしの生き字引」的存在。会社の大きな信頼を受けています。

60余年の歳月の間には、いろいろな事がありました。

昭和5年、19歳で結婚。

二人の男子と二人の女子をもうけた後も、姑に子供を預け仕事を続けました。

そして戦争。昭和20年に戦争で夫を亡くした後、女手ひとつでこの仕事をしながら、暮らしを支えてきました。

「自分にあっていたから、好きだったから、この仕事を続けてこられたんです。

それに、主人が亡くなってからは、子どもたちが自分の生活のほりになったり、仕事を続けていく上でも支えになってきたんですね。

現在は、孫が四人でひ孫が一人。三歳になるひ孫が「可愛くて可愛くて」と、目を細める田村さんです。そして、田村さんがこよなく愛しているものももう一つ。

「たわしを作っていて、「このたわしを、どんな人が使うのかな」と思うと楽しくなるし雑貨屋さんの店先で、買っている人を見かけると嬉しくなってくるんですよ。自分の作ったたわしが、可愛いんですね。」

台所用品の一つだったたわしも、体を洗ったりマッサージをするなど、健康・美容上の使われかたをされる時代になりました。田村さんも、20年以上前からたわしで身体を洗っています。そのせいか、肌がつやつや。

「あまり病氣もしません。下の歯は自分の歯だし、目も良く見えますよ」。趣味の読書も小さな文字の文庫本が、お気に入りです。

「西村京太郎の推理小説を読んでいるけど、

鮮やかな手さばきでたわしを使う



推理小説が面白いのは犯人がわかるまで。解っちゃうとつまらなくなる」とか。旅行も大好きで、沖繩以外、日本全国を回りました。

「いま、こうして楽しく暮らしているのも仕事を続けてきたから。子どもたちがそれぞれ一人前に大きくなったのも、主人が残してくれた土地を守ってこられたのも、仕事を続けていたから……。私は、何でも楽しむんです」

針金の間にパーム(ヤシ)の実の繊維を均等にほさみ、くるくると機械の取っ手を回すと、棒状のたわしのでき上がり。その間、約30秒。いま、現役の田村さんです。



「株式会社 亀の子束子 西尾商店」前で

区民が訪ねる区の施設

滝野川文化センターを訪ねて

堀内美智子さん(赤羽西6丁目)

滝野川に文化センターができました。場所は、西ヶ原一丁目、本郷通りを挟んで旧古河庭園の斜め前にある滝野川会館の二階と三階です。都心のオフィスのビルのような、とってもおしゃれな建物ですからアラッと気にとめていらした方も多いと思います。

昨年十月の開設ですが、学習室(三室)、和室(二室)に加えて料理室、視聴覚室を備え、職員9名の企画力を総動員して、利用して下さる方々を待ち受けています。

北区には、この他に赤羽文化センタ



生花によるコサージュづくりー生け花教室ー

ーと中央公園文化センターがあるので、現在三つの文化センターが区民の生涯教育の場として、提供されています。

区民と文化センターとの接点は主に「北区ニュース」の紙面です。毎月のようにに教養講座や文化教室への参加者を募集しています。最近の文化教室では



ペーパークラフトに挑戦

二、三月に行われた「ペーパークラフト教室」がこのセンターの企画です。紙のリサイクルという社会問題を基盤に、小物作りを楽しんで頂くという欲ばりな目的の教室です。



常設されているのは料理・茶道・生け花・和裁・洋裁の教室で、これは六ヶ月単位で生徒が募集されます。千五百円の受講料と材料費を各自で負担します。この教室を修了した方々が、文化センター職員の助言を得ながら新たなグループを作り、次のステップに向けて活動を始めています。こういう団体が北区役所の社会教育課で登録を行うと、無料でセンター施設を利用できるのも魅力です。

文化教室(十回)を修了した方々の感想の中で一番多いのは「もっと長く講習を続けて欲しい」でした。「建物・設備も最高」「先生が一生懸命で、とても楽しかった」など、参加した方々の充実感と期待感が伝わってきます。また、従来の事業に加えて「点字教室」を開いて欲しいという社会派の参加者や「コンピュータ教室」「北区の歴史講座」「能・歌舞伎の鑑賞教室」の開設を希望する教養派もいて、これからの企画が楽しみです。

〔編集後記〕



\*「緩やかな変革」ということが好きです。「男性」と「女性」の関係も、緩やかな変革を…。(K・T)

\*女性政策課に異動してはや1年が経とうとしています。女性問題をどれだけ知っているかと言われると不安ですが、最近では飲み屋で友人と話していても「お前それは女性問題だ」とつい言ってしまう。(T・Y)

\*前号より区民の方が編集に携わっています。平成5年度はさらに多くの方の参画を期待しています。(S・S)  
\*文化って何だろう。人々がいきいきと生きるための知恵かな。私たちの生き方を見つめ直す場として、文化センターをどんどん活用したい。(M・H)

アゼリア

北区女性だより

●発行/東京都北区

●企画・編集/総務部女性政策課

☎3908-1111

②2221・2222

●制作協力/鯨吼社